

学校教育目標	「大好き 帷子 輝く 笑顔」 ○自ら進んで学び、表現する子を育てます。【知】 ○互いに信頼し合って生きる子を育てます。【徳】 ○心も体も健康になる子を育てます。【体】 ○帷子を愛し、帷子の未来を創る子を育てます。【公】 ○どんな人とも豊かなコミュニケーションができる子を育てます。【開】				
	創立 111 周年	学校長 齋藤 容二	副校長 阿山 美香	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
学校概要	児童生徒数: 302 人 主な関係校: 峯小学校、宮田中学校、岩崎中学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 コミュニケーション能力 自立心 社会生活とのかかわり	宮田中 峯小 帷子小	心身ともにたくましく生きる子ども ・児童生徒交流を年間を通して継続して行い、互いに授業を参観し研究会をもつ。 ・行事を行う中で、小中の児童生徒が交流できる場を設定し、相互理解と一貫性の確認を行う。 ・「自主的」「自発的」「すすんでかかわる力」等身に付けたい力を日頃の実践に行かせるよう意識を継続する。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導技術の向上、学習スタンダードの徹底等行い、児童の基礎的学力の向上をめざすと共に、児童が自ら課題を見つけ、主体的に取り組む力を育てるための共同研究を行います。</li> <li>・道徳教育の充実や児童理解・特別支援教育の推進、学習や特別活動における内容や場の工夫を行い、児童がより豊かに友達やまわりの人とかかわることができるよう、コミュニケーションの力を育てます。</li> <li>・児童自らが自分の心と体を知り、目標をもって体力を向上し心の健康が保てるよう、取組を工夫します。</li> <li>・地域の教材を学習に生かし、児童自らが地域にかかわり、地域とともに歩む姿勢を育てます。</li> </ul>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	・特別支援教育ともかかわる重要な視点である学習のスタンダード、ユニバーサルデザインの共有、定着を進める。・児童自らが課題を見つけ、主体的に探究していくことのできる学習のあり方を探るための研修、実践、検討を継続して行う。・地域教材から単元の開発を行い、地域の教育力を生かした学習を進める。
豊かな心	・道徳教育推進教諭、道徳主任を中心として、研修や授業実践等を継続して行い、実効性のある道徳教育に努める。・本校のよさであるたてわり活動の継続、方法内容の改善を図りながら、児童間でかかわる意識、協働する力の育成に努める。多様性を認め合う意識の醸成、実践力の向上のための共生教育を継続する。
健やかな体	・令和2年度には活動があまりできなかったことについて、食育計画、体力向上プラン等再確認しながら、児童自らが健康に過ごせる力を育てられるようにする。家庭の協力が必要ともなるので、学校からの発信を継続したい。・区一斉研では体育科を行うが、授業者だけでなく、全校での取組を大切にしたい。
特別支援教育	・特別支援教育についての理解は年々深まってきているが、多様化する児童の状況を的確に理解し、組織での支援対応が行えるよう、コーディネーター、専任が中心となり、全職員での共通理解のもとで進められるようにする。取り出し、入り込み支援等でのよりよいかかわり方についても共有を図っていきたい。
人権教育 国際理解教育	・日々の大人の言動、やりとりについても見本となる公平公正な姿を見せていく。児童間のやりとりに対するアンテナを高くもち、児童の内面を感じ取れる感度、関係性を磨く。そのための見とり、アンケート、YP実践も共有しながら行っていく。小さな変化も共有し対応する体制を強化する。
地域連携	・懇話会のあり方に課題はあるが、継続性をもって取り組む。児童が地域に出て学習活動を行うためにも、日頃より校長が率先して地域とかかわり、様々な方、期間と関係を築いていく。地域コーディネーターとの連携を図り、ボランティアの活用を積極的に行う。地域教材の単元化を重点的に行う。
安全防災 環境教育	・安全防災に関しては、コロナ禍での活動に難しさがあるが、児童の意識行動力の醸成として、自ら考える力を大切にしていきたい。環境教育にもかかわるが、事実を見つめ、課題を見つけ、方法を考え、実践していくという過程が求められる。重点研究としても取り上げるが、日々の活動においても「問う」ことを大切にする。
情報教育	・GIGAスクール構想のもと、3年度はより実践的なICT活用が求められていく。日常的な実践とするには、共通理解が必要であるので、研修、共有、検討、実践といったことを年間を通して行う必要がある。担当者頼みではなく、教職員一人一人に意識の改革が求められる。目的と方法を混同せず取り組みたい。
いじめへの対応	・2年度はその前年度の反省を踏まえ、より細かな共有、対応検討を行ってきた。3年度も感度を高め、組織での対応力を高めたい。と同時に未然防止のための児童の見とり、共有、児童の関係づくりの取組についても共有しながら実践を続けたい。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	・教員の構成が大きく変わるため、学年間、ブロック間、全体での共有がより多く、深く求められていく。目指す方向が揃えられるよう、主幹会、教務会、各担当組織での確認を大切にする。・職員各自が自分の立場役割を理解し、主体的に行動することや意見発信することを促す。・効率化への取組を主幹会を中心に推進する。
担当	推進委員会・教育課程委員会 人権児童指導部・道徳部 体育・食育・保健部 特別支援教育委員会 人権・国際理解教育 教務・教育課程委員会 安全防災部・環境教育部・推進委員会 情報視聴覚部 児童指導委員会 主幹会・教務会・メンター研

具体的取組	
144	<131
143	<131
140	<131
141	<131
133	<131
135	<131
148	<131
143	<131
112	<131
148	<151